



入社、卒業先へ そしてその

アカルク入社のきっかけと入社当時の気持ち

矢吹 なぜアカルクに参加したのか、教えてください。

山本 私は自分が当事者だと気づいた時に悩んでいました。そのときジョブレインボーでアカルクを知り、自分も悩んだからここで「何かできることがあるのでは」と漠然とですが、思ったことがきっかけです。

矢吹 山本さんはアカルクにとって初めてのインターン生でした。当時どんな気持ちでしたか？

山本 まず「えっ」と驚きました。「第1号、自分で大丈夫？」と不安でしたが、社長である堀川さんとの面談で「山本さんは何をしたい？」と聞かれたことで、「主体的に活動できる環境」という考えに切り替わりました。

矢吹 その二ヶ月後に依田さんが入社したということですが、なぜアカルクに参加したんですか？

依田 私はずっとジェンダーに興味を持っていて、ジェンダーに関係したインターンに参加したいと思ったことがきっかけです。

矢吹 二人目のインターン生とはいえ、山本さんもまだ入社二ヶ月目でした。ロールモデルも確立されていなかったと思いますが、入社当時どんな気持ちでしたか？



アカルクが求めるインターンの理想

矢吹 今後どういうインターン生が入ってきて欲しいか、また、それによってアカルクがどのように成長してほしいか、お話しいただければと思います。

中村 人間味がある人が入ってきて欲しいと思います。どんな人間性でもいいので、癖がありそれを存分に活かせる人はこの会社に向いていると思います。社長の堀川さんの泥臭くて熱い部分というのは変わらないと思います。アカルクは基本的にプロジェクト単位で流動性がある会社なので、社風は変わっていくものかなと思います。人間味ある人が自由に働くことで次の社風につながっていくと思うので、僕はこれからも流動性のある会社に、明るく期待したいなと思っています。

依田 私は、考えることに前向き

アカルク入社のきっかけと入社当時の気持ち

安 はすべくなくなりました。

矢吹 中村さんはその約一年後に入社ということですが、なぜアカルクに入社したのでしょうか？

中村 ある人に「優作は当事者の世界でロールモデルになるように生きてほしい。見本になるような生き方をしてほしい」と言われました。それに対し、「自分からどう思われるかよりも、自分の生き方が誰かにとって見本や道標になるような生き方をしたい」と思ったことがきっかけです。

依田 活動をしていく上で、ボランティアと、ビジネスという形があると思います。しかし、ボランティアだけではなく、活動を続ける上でお金は不可欠だと感じ、ジェンダーに関する活動をビジネスとして行っている会社を探しました。そうして出会ったのがアカルクです。



インターンで学んだこと

矢吹 アカルクのインターンで学んだことであたり、気づいたことはありますか？

山本 挑戦することの大事さです。入った時は何が得意だったか、何ができないか、全く分からなかった。「挑戦します」という気持ちで答えるようにしていました。とりあえずやってみる気持ちは今後も持ち続けたいと思っています。

依田 また、ボランティアだけではなく、ソーシャルビジネスとしてアカルクのような活動を行っていく意義を学ぶことができました。

矢吹 挑戦すること、身に付いたスキルやできた経験はありますか？

山本 企画を考える際に、逆算して計画を立てられるようになったと思います。

依田 自分の中ではジェンダー×ビジネスのリアルを見ることでできたことは大きく感じます。また、仕事のやり方という面でも学びを得ました。どういう仕事のやり方が効率的なのか、プロジェクト全体を見ながら動くことで考えるようになりました。

矢吹 積極的に自ら提案して動くアカルクのインターン生ならではのですね！

中村 自分の意外な二面に気がつきました。就職活動をする上で自己分析をしていると、大企業などの大きな組織の中でのんびり、やりたいことをやるというのが向いていると思っていました。しかし、アカルクという比較的小

編集後記

卒業言外はかがででしたか？今回は卒業する三人にアカルクのインターンを振り返っていただきました。インタビュー中は終始まじめモードだったのですが、最後はいつもの雰囲気も垣間見え、「やっぱりアカルクのインターンは楽しいなあ」と思った次第です。二人、三人は「卒業」という形で少々寂しく感じています。が、ひょっこり顔をだしに来るのではないかなと思います。いや、来ると確信しています。ぜひ社会でも、明るく活躍することを願っています。

